



## 礎 いしずえ | vol.05 Contents

◎巻頭特集	巻頭
平成18年4月開設予定の 生活科学部 栄養科学科について	
平成16年度決算報告	06
平成17年度予算概要	08
平成18年度選考日程のお知らせ	09
キャンパス イベント レポート	10
【尚綱学園史】尚綱学園にある絵画(2)	12
エッセイ「捨てたら得をする」	13
尚綱学園の日開催	巻末

○新設 「平成18年4月開設予定(設置認可申請中)」尚綱大学

# 生活科学部・栄養科学科

## 生活科学部栄養科学科の新設に臨んで

本尚綱学園は、今は遙か1888(明治21)年に開設された済々黌附属女学校を源とし、創設以来「知徳併進」を建学の精神として、知育・徳育・体育を重んじ良妻賢母の育成を主な目的に掲げ、熊本地域の女子教育に大きく貢献してきました。1929(昭和4)年には、「尚綱、貞操、敬愛、勤儉、報恩」の五か条を学園の精神として制定し、太平洋戦争後間もない1952(昭和

27)年には、地域政府の要請もあつて家政教育のための熊本女子短期大学を、1969(昭和43)年には同短期大学に幼児教育科を設置し、1972(昭和47)年には国文、英文の2学科からなる文学部単科の尚綱大学を新設すると共に熊本女子短期大学を尚綱短期大学と改称し、中学校・高校・短期大学・大学を擁する女子総合学園として現在に至っております。

我が国は、太平洋戦争後アメリカ合衆国の強い指導と影響力の下に、幸いにもめざましい復興を遂げ、経済大国の仲間入りを果たしました。しか

し、その間人々は物質文明を享受するあまり、大切な日本古来の美風を忘れ、人間として不可欠な心さえ失われつつあります。第一次資源をほとんど産出し得ない我が国にとって、日本の人々に今強く求められていることは、正に「尚綱、貞操、敬愛、勤儉、報恩」を深く問い直し、これらを全人的に全うすべく努力すべきであります。また、男性が女性に良妻賢母を求めたのであれば男性はもとより良夫賢父でなければならず、それなくしては、現在我が国で急がれている男女共同参画社会の実現など望むべくもありません。

## 栄養管理のスペシャリストの養成

このような観点に立脚し、本学園にありましては2か年来、学園の改革に努めて参りました。現

代及未来を厳しく見据え、前述の建学の精神を維持しつつ、「文化と生活」に力点を置いた教育と研究を近代的に展開し、社会にあつては自立的かつ主体的な活動を通して社会貢献を果たし、家庭にあつては良き妻、賢き母として常に自己責任を自覚し家庭を健全に営み得る女性の育成をめざすことといたしました。このような方向性の実現こそが、これまで蓄積された本学園の人的及び物的資産を有効に活かす道であると考えるからであります。尚綱大学に新に生活科学部栄養科学科を新設しますのは、正に尚綱学園改革の一環であります。

現在の尚綱学園が負う最大の課題点は、小中高等教育から高等教育までを営んでいる総合的学

擁し、地域の社会的要請もなお高い短期大学へは例年尚綱高等学校からの進学者は数多く、或る程度の一貫性は確保されてきました。しかし、文学部単科の大学につきましては、選択肢が限定され、尚綱短期大学からの編入学は言うまでもなく、尚綱高等学校からの進学も多くを望むことはできません。学園としては、これらの点を深く問い、かねてより教育の一貫性を発展させるべく努力して参りました。

まず第一に、将来の社会的ニーズに応えるべく、短期大学に専攻科食物栄養専攻を1996(平成8)年に設置しましたのは、この専攻科を核として管理栄養士の養成を主目的とする4年制の学部学科の設置を意図したものであります。前理事長外村次郎先生はこの計画の実現をことのほか強く望まれましたが、この計画の実現を機

に尚綱学園の高等教育体制を抜本的に見直し、学園の将来の発展を期して、従来の文学部及び短期大学を同時に改革することといたしました。今回は、施設の新設を伴い、学園改革の柱とも言うべき、2006(平成18)年4月開校予定の生活科学部栄養科学科を本誌特集として紹介することといたしました。

この尚綱大学生活科学部栄養科学科は年次定員70名、3年次編入定員10名、収容定員300名を予定しております。また、単に管理栄養士の養成にとどまることなく、栄養管理のための高い知識と技術を備え、社会の変化と時々の社会的要請に因って幅広く社会に貢献できる栄養管理のスペシャリストの養成をもめざします。

尚綱学園理事長 江口 吾朗

